

中間評価（ステージゲート審査）結果

1. 研究課題名： ハブの形成を介した転写制御機構の統合理解
2. 研究代表者： 深谷 雄志（東京大学 定量生命科学研究所 准教授）
3. 中間評価（ステージゲート審査）コメント

本課題は、エンハンサーを多様な核内情報を統合する「ハブ」として再定義し、その作用機序を分子から個体レベルまで包括的に理解することを目指す。具体的には、ハブ形成の分子基盤、多様な核内情報統合メカニズム、個体発生における生理機能を解明するものである。フェーズ1では、入念な計画のもとで研究を着実に進め、エンハンサーは転写活性化の「ハブ」を形成することで、遺伝子発現を活性化するという新たな作用機序の存在を提唱するなど、概念的に新しい研究を世界的にもアピールできる成果を上げている。また、必要な共同研究を積極的に実施しており、PIとして研究を順調に展開している点が評価される。自身の研究テーマにおけるユニークな視点と研究哲学を感じることができた。フェーズ2では、リプレッサーが形成するハブや転写因子が形成する核内構造体の解明、ショウジョウバエ初期胚だけでなく脳や卵巣・精巣など様々な器官・組織における生理学的機能の解明などが計画されており、更なる研究の進展に大きく期待する。

以上